

歯科口腔保健事業の新規取り組み内容【概要】



他職種連携づくり

歯科医師・歯科衛生士を中心とし、施設職員や他職種（栄養士・ケアマネージャー等）といった、最前線で活動している方々が集まり、個別のケースや最新の情報について情報交換を行うことができる場面を設定し、地域の歯科口腔保健におけるつながりを強める。

口腔ケアのサポート

歯科専門職種と施設管理者などがともに考え、本人の歯みがきの受入れ度や技術に合わせて歯科口腔保健指導を実施し、その状況に応じて、本人の口腔ケアの自立を促す支援をする。

誰がどんなサポートをするという役割分担により、できる限り本人の力を引き出して、歯や口の健康を保つ。

障害者、介護を必要とする高齢者その他の者であって定期的に歯科検診を受けること等又は歯科医療を受けることが困難な人



住み慣れた場所での
歯や口の健康の維持、向上

他職種がお互いの専門的な知識を活かしながらチームとなって歯や口の健康についてサポートしていく体制を構築。

ネットワークの構築

地域の歯科診療所と障害者歯科診療所や大学病院等との連携を強化する。

地域のかかりつけ歯科医にて歯や口の健康管理を行い、治療においては、各医療機関が患者に対し治療開始から終了までの全体的な治療計画等を共有するという地域完結の実現。

周りを取り巻く方々への情報発信

家族など、周りを取り巻く方々へ講演会の実施などを通じて、情報発信を行う。

地域の歯科専門職種の養成

研修や実習を通じて、歯科医療や歯科口腔保健の普及と啓発ならびにその質の向上・充実を図る。

